



7・8月の園だより

社会福祉法人のぞみの会
大塚保育園
大塚子どもふれあい館
園長 石坂 芳
令和3年7月1日発行 No.463

先月の園だよりでお話ししましたエントランスの野菜が少しずつ収穫できるようになりました。昨日は赤くなったトマトを収穫しました。収穫したトマトは給食室に渡し、調理してもらい子ども達に提供します。自分で世話をして収穫した野菜なので、みんなとても美味しく食べています。

さて、今年も年長さんはお泊りに代わる行事“デイキャンプ”を、先日実施しました。行事に先立ち、みんなで藍染め制作をしたTシャツを着て、ホールにテントを張り、テントの中で色々な遊びを体験して、楽しい時間を過ごしました。夕食後は、フォークダンス・キャンプファイヤー、最後に花火大会をして、楽しいデイキャンプの1日を過ごす事が出来ました。

これから保育園行事もいろいろ計画しておりますが、子ども達の保育園生活の一部と捉え、楽しく無理のない行事を考えていきたいと思っております。

保護者の皆さま、今後ご理解ご協力をお願いいたします。

園長



- 7月**
- 1日(木) リトミック(ひかり・にじ)
 - 6日(火) 手洗い指導3才
 - 7日(水) セタ(各クラスにて) 体操のじかん(そら)
 - 8日(木) リトミック(にじ・そら)
 - 13日(火) 誕生会(7/8月合同) 歌のじかん
 - 14日(水) 体操のじかん(にじ) 乳児健診(ゆめ/ひよこ)
 - 15日(木) リトミック(そら・ひかり)
 - 16日(金) わくわく2021夏
 - 20日(火) 歌のじかん
 - 21日(水) 体操のじかん(ひかり)
 - 31日(土) わくわく2021びしょびしょ (父母会主催)
- 8月**
- 11日(水) 乳児健診(ゆめ/ひよこ)

個人面談(希望者)が始まります

つき・うさぎぐみ〔期間7/5~13〕
幼児クラス〔期間7/5~19〕

園でのお子様の様子を伝え、今、子育てで困っていることなどありましたら一緒に共有してお話したいと思います。

テラスより保育室にいらして下さい。

※何かお子様の事でご相談したい事がありましたら、随時受付けておりますので担任までご相談下さい。

緊急事態宣言が解除になりましたので、幼児クラスの保育参加体操参観・リトミック参観を再開致します。

参観を希望される方は幼児クラスの職員までお声かけ下さい。

9月に予定されておりました“祖父母交流会(年長)”大変残念ですが今年も開催中止といたします。

新しいお友達の紹介

ゆめぐみ 2名

《実習生が入ります》

1名 (7/5~7/16)
よろしくお願ひいたします。

今年度7・8月のカレンダーが変更になっております。園発行の行事予定表は変更されております。

★祭日⇒平日
・7/19(月曜日)
・8/11(水曜日)
～通常保育です。

☆平日⇒祭日
・7/22(木曜日/海の日)
・7/23(金曜日/スポーツの日)
・8/9(月曜日/振替休日)
～上記3日は休園となります。ご確認をお願いします。

プール・水あそびが始まりました。

今年度はプールは使用しませんが、水遊びを安全に楽しく行っていけるように、乳児・幼児それぞれの水遊びの場所で、園長先生にお清めをしてもらいました。

みんな真剣な表情でお清めを見つめていました！

自分で考えて行動する力」を育む六つのポイントって!?

- 1《お願い、依頼、提案をするような声かけをする》
「お子さんにしっかりやってほしい」という思いから、つい私たち大人は、上から物を言ってしまうようになりますよね。お子さんに一方的な指示、命令ではなく、次のような「お願い、依頼、提案をするような声かけ」に変えてみるのがおすすめです。例えば、「早くしなさい」→「もうおうちを出ないといけなから、靴履いてくれる?」「ちゃんと見なさい」→「ここを見ると、こぼさずに入れられるよ。」「片付けなさい」→「この棚に戻してね、お願いします。」
このような声かけに変えることで、お子さんの「聞こう」とする心の扉が開きます。お子さんに思いやりを持って関わることが必要なのです。
- 2《声かけだけでなく大人と一緒にやって見せる》
特に0～3歳の時期の子どもは目の前のことに全力なので、ただ「お風呂に入ろうね」「片付けをしようね」と声をかけるだけでは耳に入りません。お子さんの行動のキリがいいところで声を掛けてみましょう。一人で出来るように見守りながら、出来ないときにはお子さんの半歩先を行って見せ、一緒にやり、手伝ってあげることがお子さんの自立に繋がっていきます。
- 3《決定権をお子さんに渡して自分で決めたと感じられるようにする》
例えば「お風呂に入ろうと思うけど、あと何冊でおしまいにする?」「時計の針が5か6、どっちに来たらおしまいにする?」などと、お子さんに決める主導権を渡して“自分で決めたと”感じられるようにします。お子さんも満足でき、自分で決めたと責任を持てるようになり、自分で考えて行動する力にも繋がっていきます。その日に着る服、食べる物、買う物などお子さんが自己選択する場面では、お子さんが決められたものであれば、お子さんの選んだものを尊重しましょう。「自己選択力」が育まれる助けとなっていきます。
- 4《声のかけ方を「問いかけ」に変える》
お子さんがやるべきことを理解できるようになって、自分一人で出来る年齢になったら、声のかけ方を「問いかけ」に変えてみるのがおすすめです。「OOしようね～」「OOしなさい」と一方的な声かけから、お子さん自身が考えられる声かけに変えてみましょう。
「着替えなさい」→「この次何するの?」「早く手を洗いなさい」→「ご飯の前には何だった?」など「問いかけ」をすることで、ただ指示されて動くから、大人の声かけをきっかけに考えて動くに変わります。
- 5《やることを「見える化」する》
まだやる事が抜けてしまう、つい違うことに気がそれて、やる事が進まないという場合はやるべきことを「見える化」するのがおすすめです。大人がやるべきことを言語化して確認し、見える化する事で、お子さんは自分がやらなければいけないことを再認識でき、さらにその理解を深められることがあります。例えば「朝起きてからおうちを出るまでに、することは何かあるのかな?」と朝のルーティーンや、帰宅後、寝る前のルーティーンなどをお子さんと確認してみましょう。やることを書き出して、一度リストにしてみるのもいいですね。リストを家の目に付きやすい場所に貼り出して、やった項目をチェックしながら、お子さんが自分で行動できるようにするのも一つの方法です。
- 6《お子さんの力でやり遂げられる環境を用意する》
服を選ぶ、顔を洗う、荷物を用意するなどお子さんが身支度をするとき「自分の力でできる」環境が整っている事が重要です。例えば洋服を選ぶときも、お子さんの手の届く高さで、お子さんが自分で開けられるところに、お子さんの種類ごとに整理して収納されている。そのような環境があると「あの服取って～」「あの服どこにあるの?」と、お子さんが大人を頼る必要がなくなります。大人の力を借りないとできないということは、大人に助けを待たなくては行けなかったり、アクションが増えたりして、お子さんにその行動を億劫にさせる要因になります。自分の力で完結できる環境を用意してあげると、言われなくても行動する力が育まれていきます。また、テレビも環境の一つです。テレビが流れていると、そちらに注意がそれて、お子さんは自分が今やっていることを忘れてしまいがちです。やるべきことにお子さんが注意を向けられるようにするためにも、視聴時間のメリハリをつけることが必要ですね。

参考文献 モンテッソーリ教育が教えてくれた「信じる」子育て 著者 モンテッソーリ教師あきえ

デイキャンプのおおつか～6/26～

このままずっとテントにいたい～

楽しい～ (^o^)/

このままデイキャンプ終わらないといいのに...